

笑顔があふれるさばえに

佐々木鯖江新市長



10月19日に初登庁した佐々木勝久市長。多くの職員や市民の盛大な出迎えを受け、鯖江のかじ取り役を任された責任の重さと決意を新たにしたことだろう。終息の見えないコロナ対策など喫緊の課題に立ち向かう。

昭和30年の市制施行以来65年ぶりの三つどもえの争いとなった鯖江市長選。激戦を制し佐々木勝久氏(52)が、初当選した。

激戦だっただけに当確が出ると、選挙事務所は支持者の歓声や拍手に沸き、佐々木氏が現れると握手攻めに。「みんなで新しい鯖江を進めていくために、いろんな声をください。それらを事業化し、スピード感を持って進めていきたい」と決意を述べた顔は喜びに満ち溢れていた。

10月19日に初登庁。市役所

に到着した佐々木市長は、職員や市民ら約300人に出迎えられ、花束を受け取った後、幹部職員を前に初訓示。

これから、職員の皆さんと一緒に『笑顔があふれる「さばえ」をつくる』ために全力で仕事をしていく。そのために必要な事は「自分自身と仕事への取組みを見つめ直し、再びゼロから積み上げていく努力を惜しまないこと」「市民とこのまちのために、全力で行動していくこと」だと思ふ。職員の皆さんとも対話を重視し、風通しの良い市長室をつくり意思疎通をしっかりと行っていくと、強い決意を示した。